

## 教育研究業績書

氏名 松本 純子 印

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学	乳幼児教育、家庭教育、教育環境(特に音環境)、地域伝統文化

## 教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践例	2016年度～各年複数回実施	都内公立幼稚園・保育所に勤務する現場の教員・保育士を対象とした研修会において講師を務めた。幼児理解の方法について、教材準備の方法について、幼児の表現活動について、幼児期の道德性の育成について、保・幼・小連携教育についてなどをテーマに実践し、保育者の資質向上に貢献した。また、ここで得た現場保育者の声を授業に反映させ、現場がより密接に感じられるようにした。
2. 作成した教科書、教材	2017年3月 2018年3月 2019年1月 2020年4月	1)「保育内容 環境」みらい社:共著 2)「つながる保育原理」みらい社:共著 3)「幼児指導要録記入の実際と用語例」すずき出版:共著 4)「保育内容「健康」」ミネルヴァ書房:共著
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	2020年2021年・2022年前期・後期	学生による授業アンケート評価の結果は、前期の「保育原理」「教育課程総論」「課題研究B」および後期の「保育内容総論」「課題研究A」は、いずれも授業目的の理解・真剣に取り組んだか、内容を理解できたか、教員からの教材提示は適切であったかなどの質問項目について、5段階評価の4以上であり、特にオンライン授業であったために工夫した教材については、「わかりやすかった」「見やすかった」「内容が適切な質量であった」
4. 実務の経験を有する者についての特記事項	2016年1月 2016年7月 2017年7月 2018年7月 2019年5月 2019年6月 2019年12月 2020年12月 2021年5月 2021年7月 2023年3月	江東区立幼稚園教育研究会研究発表会記念講演講師 埼玉県私立幼稚園協会主催、免許更新講習講師 埼玉県私立幼稚園協会主催、免許更新講習講師 埼玉県私立幼稚園協会主催、免許更新講習講師 港区立幼稚園教育研究会講師 埼玉県私立幼稚園協会主催、免許更新講習講師 荒川区立幼稚園研究発表会記念講演講師 港区立幼稚園教育研究会講師 台東区立幼稚園研究会講師 埼玉県私立幼稚園協会主催、免許更新講習講師 新宿区立幼稚園教育研究会講師
5. その他	2017年5月～ 2019年5月～	横浜市保育協議会・保育所設置認定委員会委員(任期2年) 横浜市保育協議会・保育所設置認定委員会委員(任期2年)

## 職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1. 資格、免許	1981年3月	1)幼稚園1種普通教員免許:昭56幼1普 第535号(東京都教育委員会) 2)小学校1種普通教員免許:昭56小1普 第1424号(東京都教育委員会) 3)保母資格
2. 特許等		特になし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	2017年5月～ 2019年5月～	横浜市保育協議会・保育所設置認定委員会委員(任期2年) 横浜市保育協議会・保育所設置認定委員会委員(任期2年)

4. その他		特になし
--------	--	------

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1)「保育内容 環境」  2)「つながる保育原理」  3)「幼児指導要録記入の実際と用語例」  4)「保育内容「健康」」	共著  共著  共著  共著	2017・3  2018・3  2019・1  2020・4	みらい社  みらい社  すずき出版  ミネルヴァ書房	保育内容を学習する際の領域「環境」学習のための教科書として作成した。実践編7「文字や数量への興味関心に関する事例」(p162～p167)を担当した。秋田喜代美、増田時枝、安見克夫、箕輪潤子、石井恭子、石田佳織、大澤洋美、…松本純子、水野佳津子、山崎莉奈  保育の原理原則をわかりやすく表記した教科書。第8章「保育の計画とつながる一教育課程・全体的な計画とカリキュラム。マネジメント」(p104～p117)を担当し、保育を意図的・計画的に実施するために欠かせない長期計画・短期計画等について解説した。井上孝之、小原敏郎、三浦主博、飯島典子、岩崎基次、塩谷香、…松本純子、宮本和行  教育要領・指針の改定を受け、幼稚園幼児教育要領・保育所保育指導要領等の表記方法の変化に対応した新記入様式・記入例を作成した。全体の相談役を担った。関口準、生駒恭子、伊藤ちはる、鈴木隆、高橋かほる、兵頭恵子、松本純子、宮崎芳枝、安見克夫、山内一弘  領域「健康」を学習する際の教科書として作成した。第9章「体育的行事と健康」(p117～p132)および第11章「家庭との連携」(p142～p155)を担当し、体育的行事を通して子どもに育てたいことと指導上の留意点、家庭との連携の在り方を執筆した。重安智子、安見克夫、佐野裕子、堤ちはる、桜木真知子、松本純子、松本紀子、吉野尚也、鎌田佳奈美
(学術論文) 1「子どもたちが作る音環境の情報構造に関する研究」(学術修士学位論文)	単著	2016・12	放送大学大学院	子どもたちが生活や遊びの中で発する声、遊具・玩具の音、歌・楽器の演奏等について、幼稚園で音環境を録音し、その周波数帯域を調べた。その結果、子どもの周囲の音環境は、脳を活性化し人を心地よくさせる高周波を多く含んでいることがわかった。比較対象として、大学のカフェテリアの音環境を上記と同じ条件で録音し周波数帯域を分析したところ、高周波は少なく、園の音環境とは全く異なるものであることがわかった。ことから、子どもが生活や遊びで発する音環境は騒音として排除されるべきものかどうか再考を要するのではないかと提言した。
(その他) 1「幼児教育における地域伝統文化の活用について」  2「子どもたちがつくる音環境の情報構造と」  3「幼児教育における地域伝統文化の活用について」  4「文化や伝統を保育に生かすことについての一考察」  5「保育を学ぶ学生が子どもたちに伝えたいと考えていること」  6「子どもの遊びを形成する先行体験について」	—  —  —  —  —  —	2016・11  2016・11  2018・12  2020・11  2021・12  2022・12	日本乳幼児教育学会  日本乳幼児教育学会  日本乳幼児教育学会  日本乳幼児教育学会  日本乳幼児教育学会  日本乳幼児教育学会	第26回日本乳幼児教育学会(神戸女子大学・神戸女子短期大学)で発表。鹿児島県の郷中教育の事例などをもとに、子育ての過程で家庭だけでなく地域社会が関与することの重要性や、その地域の特徴を備えた文化を伝承することが意義が大きいことを  第27回日本乳幼児教育学会(十文字女子大学)で発表。子どもが生活や悪阻日の中で発する様々な音環境の周波数測定の結果から、子どもの発する音環境は必ずしも騒音ではなく意味があることを考察した。  第28回日本乳幼児教育学会(岡山コンベンションセンター)で発表。新潟県村上市の「郷育」を紹介し、地域に人と一緒に子どもを育てる仕組みとそこで鮭文化を伝承している事例を紹介し、子どもの育ちにとっての地域伝統文化意味について考察した。  第30回日本乳幼児教育学会(オンライン開催)で発表。保育を学ぶ学生へのアンケート調査をもとに、子どもの時の地域伝統行事の思い出や何が経験できたか、保育者になったらどのようなことを伝えていきたいかをまとめ、保育における地域伝統文化の  第31回乳幼児教育学会(オンライン開催)で発表。保育を学ぶ学生へのアンケート調査をもとに、学生が幼児期に体験したことで、今後保育者として子どもに伝えたいことを、幼児期における遊びの意味を絡めて考察した。  第32回乳幼児教育学会(オンライン開催)で発表。3・4・5歳児が自由に遊んでいる場面で、遊びに見られるイメージはどのようなものでありどのように再現しようとしているのかを事例を通して考察した。